三線式シリアルデータジェネレータ
アプリケーションソフト
取扱説明書

初版：　　　　　２００４年０９月１３日

目　次

１．概要

この取り扱い説明書は、「三線式シリアルデータジェネレータ」ソフトウェアにおいて適用されるものです。
三線式シリアルデータジェネレータは株式会社インタフェース社の Cardbus アナログ入出力カードに対応して動作するため、ノートパソコンで使用する事が出来ます。
但し、ＰＣカードスロットを装備している必要があります。

本三線式シリアルデータジェネレータはＰＣ画面上に構成される仮想ＤＩＰスイッチをマウスで操作することにより簡単にデータの設定ができ、また設定したデータはファイル化できますので、再設定の必要がなく作業の効率アップが計れます。

２．アプリケーションのセットアップ

三線式シリアルデータジェネレータを、お持ちのコンピュータで使うために必要な準備、また注意点について説明します。

２．１インストールの準備

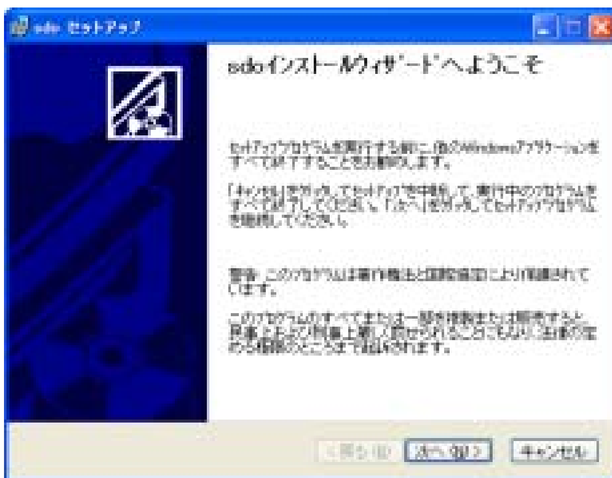
三線式シリアルデータジェネレータの CD-ROM をお使いのパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。プログラムが自動的に起動し、作業が開始されます。

＊何も変化がない場合には、ウィンドウズのスタートメニューから、「ファイル名を指定して実行」を選択して、「D:\setup.exe」と入力して下さい。

（本ソフトの CD-ROM をセットしたドライブが D ドライブの場合）

２．２セットアップの開始

三線式シリアルデータジェネレータのセットアップが開始されると、下の画面が表示されますので、内容を確認した上で［次へ］をクリックして下さい。



２．３インストール先の選択

インストール先のドライブ、フォルダを指定します。通常は変更する必要がありませんので［次へ］をクリックして下さい。

＊インストール先のドライブ、フォルダを変更する場合は［参照］をクリックしてドライブ、フォルダを指定して下さい。



２．４インストールの最終確認

インストールを開始します。インストール情報に問題がなければ、［次へ］をクリックして下さい。

＊インストール先のドライブ、フォルダを変更する場合は［戻る］をクリックしてインストール情報を再入力して下さい。
インストールを中止する場合は［キャンセル］をクリックして下さい。



２．５インストールの終了

インストールが終了すると下画面が表示されます。［終了］をクリックして下さい。
インストールが終了し、ウィンドウズの画面に戻ります。
パソコンを再起動し、三線式シリアルデータジェネレータをご使用下さい。



３．三線式シリアルデータジェネレータの操作

３．１三線式シリアルデータジェネレータの起動と終了

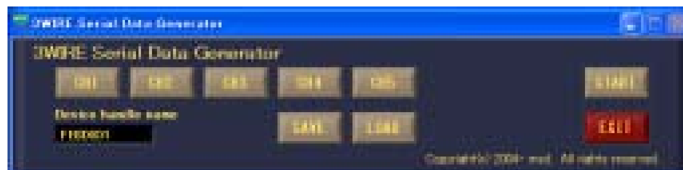
３．１．１三線式シリアルデータジェネレータの起動

本ソフトのインストールが完了すると、Ｗｉｎｄｏｗｓの＜スタート＞メニューに sdo が登録されます。

１．＜スタート＞メニューの中にある＜プログラム（Ｐ）＞を選択します。

２．サブメニューに「sdo」が表示されます。
　　その中にある「sdo」を選択します。

３．三線式シリアルデータジェネレータのメイン画面が表示されます。



３．１．２三線式シリアルデータジェネレータの終了

メイン画面の中にある＜ＥＸＩＴ＞ボタンを選択します。
注：少し長めにゆっくりとクリックして下さい。

３．２三線式シリアルデータジェネレータの画面構成

３．２．１メイン画面

メイン画面の各要素について説明します。



■Device handle name　・・・ＰＣカードのデバイスハンドルネイムを設定します。

●CH1-CH5 ボタン　・・・このボタンを選択すると、各チャンネルのデータ設定画面が呼び出されます。呼び出された画面でデータ等の設定を行います。

●START ボタン　・・・各チャンネルの画面でデータ等を設定した後、このボタンを選択すると、一括でデータの送出がスタートします。

●SAVE ボタン　・・・各チャンネルで設定したデータ等をファイルに保存する場合にこのボタンを選択します。

●LOAD ボタン　・・・このボタンを選択すると、ファイルに保存されていた設定データ等が各チャンネルの画面にロードされます。

●EXIT ボタン　・・・本ソフトウェアを終了して、Ｗｉｎｄｏｗｓに戻ります。

３．２．１．１デバイス設定

本三線式シリアルデータジェネレータは株式会社インタフェース社の Cardbus デジタル入出力カードを使用します。
インタフェース社の他の入出力ボードまたは入出力カードと混在して使用する場合にはデバイスハンドルネイムが上記ダイアログのデフォルト値と違う場合があります。
ｗｉｎｄｏｗｓのデバイスマネージャーでデバイスハンドルネイムを確認の上、正しく設定して下さい。

３．２．２データ設定画面

データ設定画面の各要素について説明します。

メイン画面で CH1-CH5 ボタンのいずれかを選択すると、対応したチャンネルの設定画面が呼び出されます。



■clock　　　・・・クロックのエッジの方向を選択します。クリック毎に方向が替わります。

■LE len　　・・・ラッチイネーブルパルスのパルス幅の設定を行います。（クロック幅の倍数設定となります。）

■grp1-7　　・・・設定したデータの送出の有無をチェックします。

■31-0　　　・・・データの送出ビット長を決めます。８ビット送出なら、７－０までチェックを入れます。７ビット目から順に送出されます。

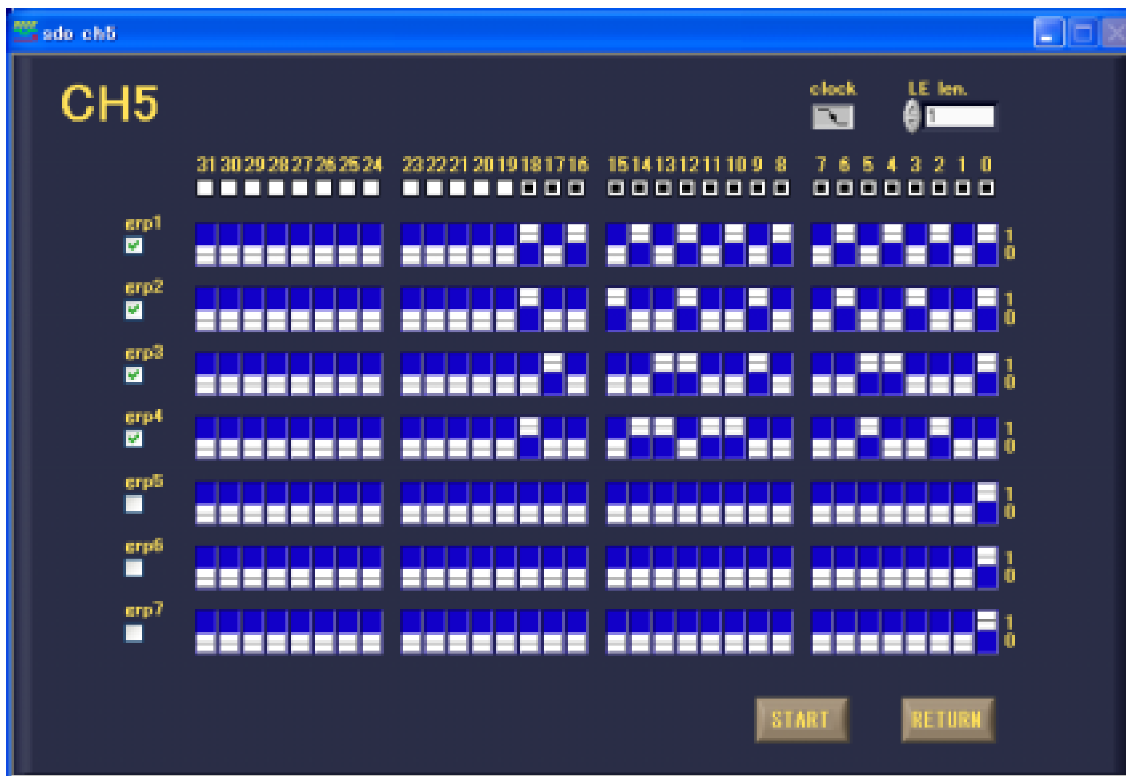
◆DIP スィッチ　・・・データの設定を行います。マウスでカーソルを当て、クリック毎に状態が替わります。白いトップが上で「1」、下で「0」です。

●START ボタン　・・・本画面で設定した条件でデータを即座に送出します。

●RETURN ボタン　・・・設定条件を保存し、データの送出をせずにメイン画面に戻ります。

３．３設定例

下記のような設定の場合について説明します。



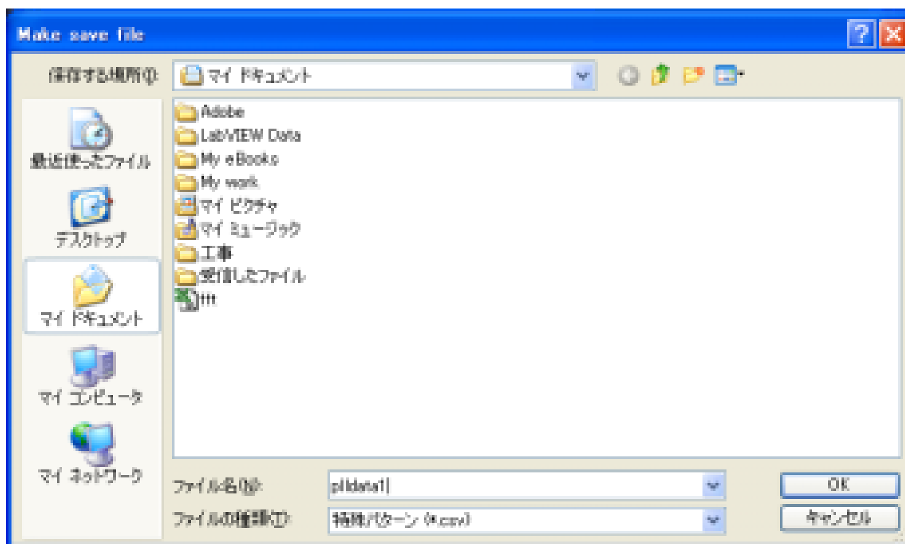
（１）チャンネル５での設定となります。
（２）データの取り込みクロックエッジの方向は下向きとなります。
（３）ラッチイネーブルパルスのパルス幅は１クロック幅となります。
（４）データ長は１８－０にチェックが入っていますので１９ビット長となります。
（５）送出されるデータはチェックの入っているｇｒｐ１、ｇｒｐ２、ｇｒｐ３および
ｇｒｐ４となり、ｇｒｐ５、ｇｒｐ６、ｇｒｐ７は送出されません。
（ｇｒｐとはグループの略です。）
（６）送出されるデータは以下の通りです。（上位、左端からの送出）

ｇｒｐ１：	１０１	０１０１０１０１	０１０１０１０１	（５５５５５Ｈ）
ｇｒｐ２：	１００	１００１００１０	０１００１００１	（４９２４９Ｈ）
ｇｒｐ３：	０１０	００１１００１０	００１１０００１	（２３２３１Ｈ）
ｇｒｐ４：	１００	０１１０１１００	００１００１００	（４６Ｃ２４Ｈ）

３．４設定データのセーブ

ファイルに各チャンネルに設定したデータを保存します。

（１）設定が終了したら、メイン画面の＜ＳＡＶＥ＞ボタンを選択します。
ファイルの選択ダイアログが表示されます。



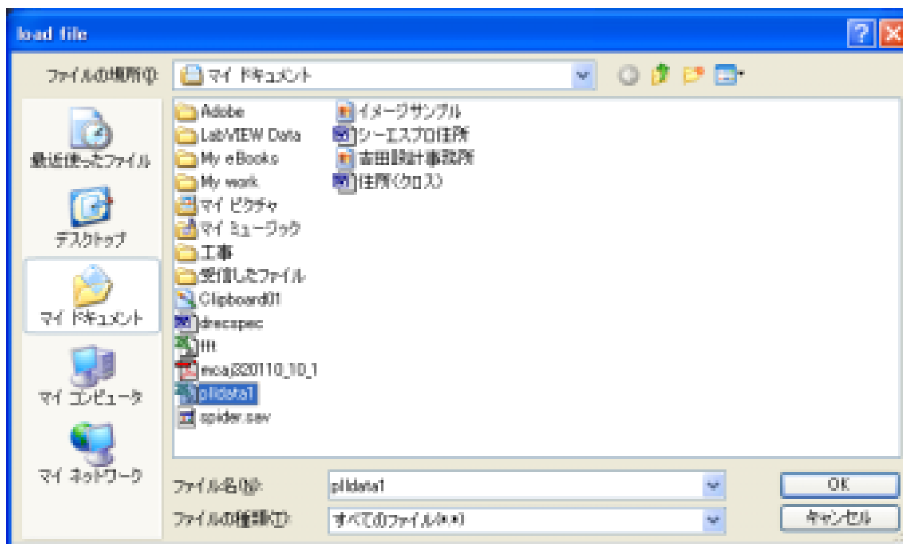
（２）ファイル名入力します。

（３）＜ＯＫ＞ボタンを選択します。設定データがファイルに保存され、メイン画面に戻ります。

３．５設定データのロード

ファイルに保存した、過去の設定データを各チャンネルの画面に再表示します。

（１）メイン画面の＜ＬＯＡＤ＞ボタンを選択します。
ファイルの選択ダイアログが表示されます。



（２）ファイルを選択します。
（３）＜ＯＫ＞ボタンを選択します。
（４）保存したデータが各チャンネルの画面に再表示されます。

注：ロードする前に設定されていたデータは失われます。